

***** 第18回原子核談話会新人賞受賞者 *****

第18回より本新人賞は対象を博士論文に絞った「博士論文賞」との位置づけとなります。

1. 原子核談話会新人賞

2. 目的： 原子核実験分野で優れた博士論文を完成させた若手研究者を表彰する。

3. 資格： 原子核談話会会員で、博士の学位取得後2年以内を原則とする。

4. 対象： 博士論文

(審査に当たり、博士論文そのものの評価に重点を置く。また、博士論文に関連してレフエリー
付き雑誌に発表された論文を参考とする。)

以下、受賞者と受賞理由です。

選考委員会委員長 下田 正 (阪大理)

堂園昌伯氏 (理研仁科センター)

九州大学大学院理学府基礎粒子系科学専攻博士後期課程 (2010年9月取得)

「(p, n)反応の全偏極移行量測定から探る核内中間子相関」

パイ中間子モードとロー中間子モードの断面積を分離して測定したことは高く評価出来る。
必要な検出器を自ら開発したこと、学術雑誌に公表されていることも評価される。

松原礼明氏 (理研仁科センター)

大阪大学大学院理学研究科物理学専攻博士後期課程 (2010年9月取得)

「sd殻領域に渡るN=Z偶々原子核からのアイソスカラー・アイソベクター型スピン-M1遷移」

M1遷移強度をアイソスカラー成分とアイソベクター成分に分けて測定することに成功し、
アイソスカラー成分にはクエンチングがないことを初めて示したことは高く評価される。

三木謙二郎氏 (阪大RCNP)

東京大学大学院理学系研究科物理学専攻博士後期課程 (2011年3月取得)

「300MeV/uにおける(t, ³He)反応を用いたβ⁺型荷電ベクトル型スピン単極共鳴状態の研究」

新しいプローブを用いて荷電ベクトル型スピン単極共鳴を初めて測定したことはすばらしい。
実験の隅々まで主導したことや、工夫を重ねて解析したことが読み取れる丁寧な学位論文である。